

いつまでも健康な体でどこまでも

けんしょうかい

健翔会だより

26号

2014・3月1日

発行所

香川県坂出市川津町
(〒762-0025) 3329-14
医療法人社団 健翔会
堀口医院
TEL 0877-45-8686

◎本紙に関するご意見、ご質問がありましたら
お気軽にどうぞ！

<担当>高橋, 青北
TEL 0877-45-8686 FAX 0877-45-8883
HP <http://www.horiguchi-hp.jp>



堀口 裕 先生

1. 病気の根を抜きましょう

突然、今日脳梗塞になりましても、あるいは今年健康診断で肺がんが診断されましても、急に病気になったとは到底考えられません。一般に脳梗塞ともなれば、脳の血管もくたびれて、かなりもろくなっていたに違いありません。そんな血管になるには、数十年もかかっていたと思います。あるいは肺がんと言われましても、画像検査に見える大きさになるまでには、何年も、いいえ何十年もかかるに違いありません。すなわち、いかなる病気と診断される場合でも、病気になるまでには、その準備段階があると考えられます。これを草木にならって“病気の根”と呼んでいます。私たちが病気になる過程には、必ず病気の根が存在します。従来の医療では、往々にして病気の治療に終始しがちでしたが、患者さんの病気が改善の段階を越えて治るといふ段階までたどり着くためには、病気の根を抜かなければなりません。

今までの医療・・・病気を診る

健康	病気(幹)
----	-------

これからの医療・・・病気の根も一緒に診る

これを“根元の医療”と呼ぶ

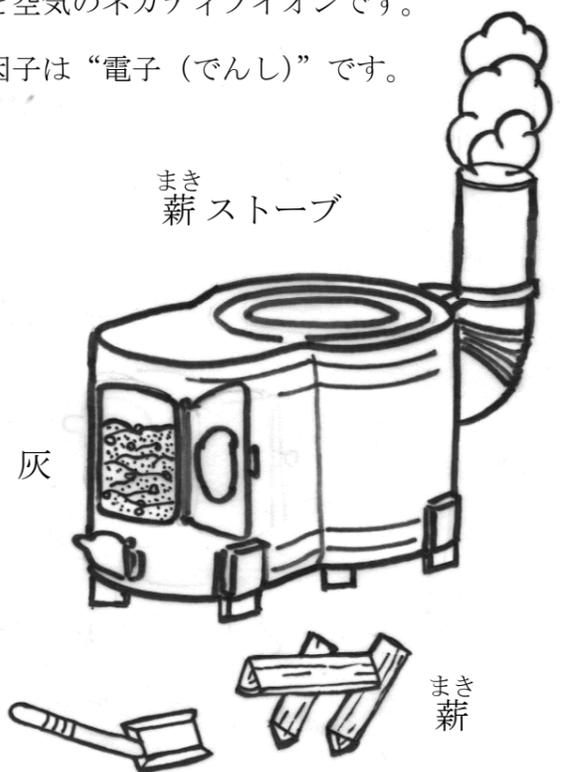
健康	病気の根	病気(幹)
----	------	-------

2. 細胞の老廃物を除きましょう

今年は例年になく全国的に豪雪でした。北海道や東北では、冬の暖房に薪(まき)ストーブを使う家があります。むしろ最近では薪ストーブの良さが見直されて、暖房にしているご家庭が増えているようです。私もしばらく薪ストーブで過ごしていましたので、その抜群の火力をよく知っています。しかしこの薪ストーブ、一つ難点があります。それは薪をくべて燃え尽きた後、ストーブの中に沢山の灰がたまるのです。そのまま灰がたまり続けると、ストーブの中が灰で一杯になり、それ以上薪をくべれなくなります。一度ストーブの中の灰をかき出して、薪をくべるスペースを確保しなければなりません。これが大変です。

実はこの作業こそが、病気の根を抜き取る作業なのです。iPS細胞やSTAP細胞を用いた再生医療にあるように、人の体が病気になるときの場所は細胞ですので、細胞を復活させることで病気を治療することができます。しかしそれと同時に、今ある細胞が病気にならないように、細胞の元気を回復させる治療も重要です。私たちは日々の生活の中で、猛烈な勢いでストレスや過労による負荷をかけています。それが細胞を酷使していることとなります。このとき細胞には沢山の老廃物が蓄積しています。この老廃物を除去しないと、もはや細胞にご飯を供給できなくなります。たとえご飯を入れ込んでも、燃えが悪いに違いありません。体中の細胞の老廃物の除去こそが、病気の根を抜くこととなります。老廃物の除去に欠かせないのが、食べ物の抗酸化物質と空気のネガティブイオンです。

両方に共通の因子は“電子(でんし)”です。



“根元の医療”が紹介されている医療雑誌です。
ご参考にして下さい。

いろいろ豆知識

ステロイドの外用剤（塗り薬）

一般的に、ステロイドの塗り薬を使うのは「あまり気が進まない」という患者さんが少なからずおられます。「ステロイドを使うと強い副作用が出て怖いから」というのが、その主な理由のようです。今回はステロイド外用剤について「本当はどうなの？」を知るためにクイズを用意しました。

ステロイド外用剤のウソとホント

説明されている内容が正しければ○を、間違いだと思うものには×を。

Q1. ステロイド外用剤を一度使用するとやめられなくなる。

Q2. ステロイド外用剤を中止するとリバウンドが起こる。

Q3. ステロイド外用剤を使用すると、骨がボロボロになる。

Q4. ステロイド外用剤を使用するとニキビ、おできなどが出来やすくなる。

Q5. ステロイド外用剤を使用すると色が黒く残ってしまう。

Q6. ステロイド外用剤は皮膚に蓄積する。

Q7. ステロイド外用剤を長期間使用すると、血管が浮いて皮膚が薄くなる。

<クイズの答え>

Q1.

ステロイド外用剤は炎症を抑えるお薬で、病気そのものを治すものではありません。患者さんの症状に合わせて、ステロイド外用剤を使用するかどうかが決まりますが、病気によっては、お薬をすぐにやめることの出来る場合がたくさんあります。その逆に、長期にわたって治療を続けなければならない病気もあります。この場合もステロイド外用剤だけで治療を続けるわけではなく、副作用が起こらないように、お薬を上手に使っていきながら、症状を改善していきます。

Q2.

慢性の病気では、症状が落ち着いているようにみえても、

病気としては続いているため、自分の判断でステロイド外用剤を始めとした治療を中止すると、病気は再び勢いを増して、時にはとてもひどい症状になってしまいます。これはお薬の中止の仕方が適切でないために、もともとの病気が悪化したもので、リバウンドとは違います。

Q3.

塗り薬であるステロイド外用剤は、通常の使用量では、体内に入るのは微量ですので、骨に悪い影響を与えることはほとんどありません。ただし、ステロイドの内服や注射の治療を長い間続けると骨がもろくなってしまうことがあります。

Q4.

ステロイド外用剤を使用した場合、全身的な問題はありませんが、お薬を塗った部分の皮膚の免疫力が低下して、その部分に細菌・カビ・ウイルスがついて、ニキビやおできが出来やすくなります。今までとは違った症状が現れたと感じたら、すぐに医師に相談しましょう。

Q5.

日焼けの後に肌が黒くなるように、皮膚の炎症が治まった後に色素が残り、肌が黒くなることがあります。これは、今まで炎症の赤みで見えなかった色素が、ステロイド外用剤の使用で炎症が治まることにより、かえって目立ってくるためです。その色素も時間とともに徐々に薄くなっていきます。

Q6.

ステロイド外用剤は皮膚に蓄積することはありません。その証拠にステロイド外用剤を突然中止すると症状が悪化してしまいます。もし皮膚に蓄積するのであれば、使用を中止しても、しばらくは効果が持続するでしょう。

Q7.

お薬の吸収がよい顔面や、お年寄りの皮膚に長期間にわたって強いステロイド外用剤を使用し続けると、血管が浮いてきたり、皮膚が薄くなったりすることもあります。しかし、このような副作用は適度な強さのステロイド外用剤を適切な期間、お薬を休む期間をもうけながら使用していけば避けることも出来ます。自分の判断でいつまでも続けて使わないようにしましょう。